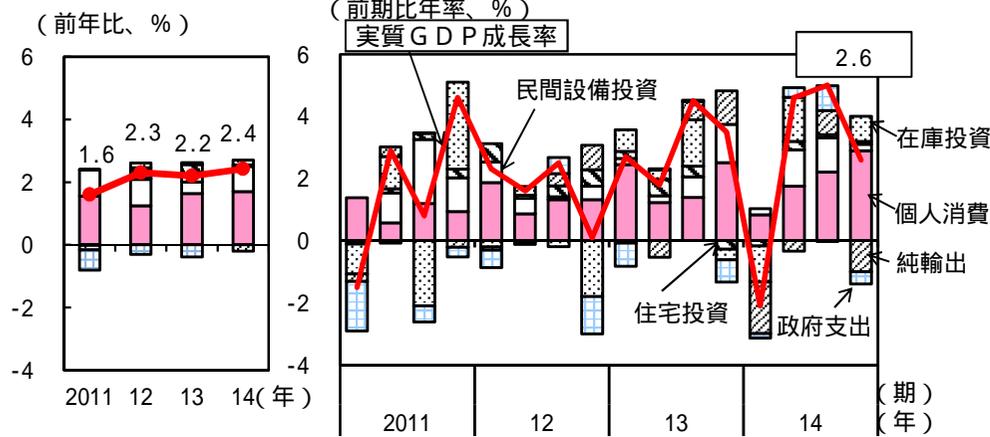


1. アメリカ

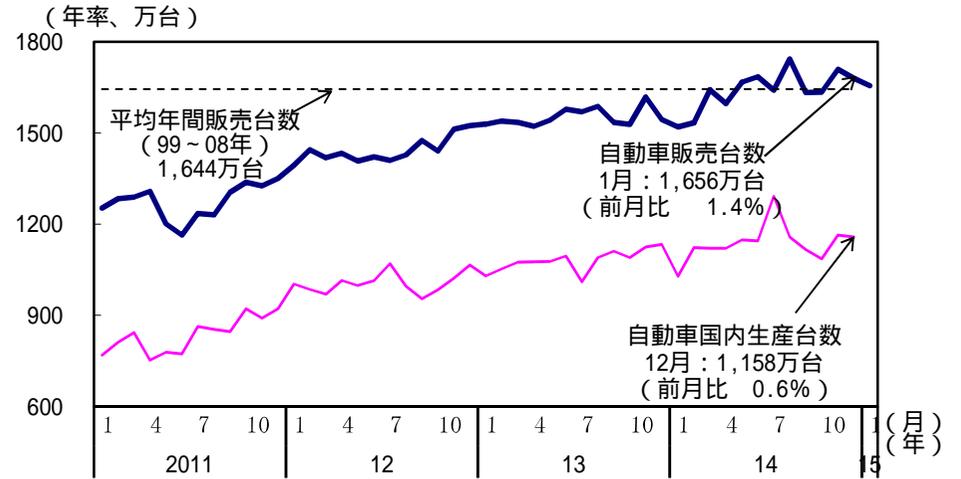
アメリカでは、景気は着実に回復している。

実質GDP成長率（1次推計値）
2014年10～12月期は前期比年率2.6%成長

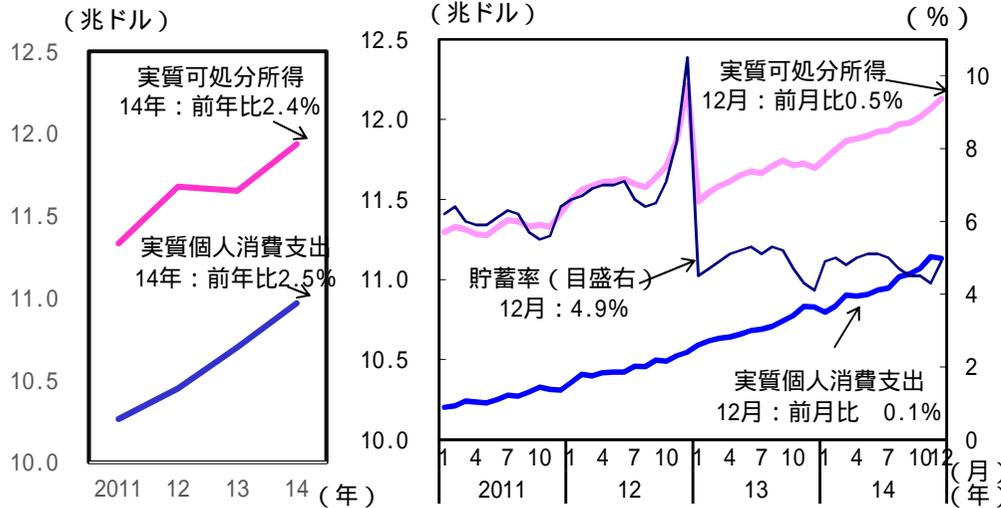


（備考）2014年10 - 12月期の寄与度（%）は以下のとおり。個人消費：2.9、民間設備投資：0.2、住宅投資：0.1、在庫投資：0.8、政府支出：0.4、純輸出：1.0。

自動車販売台数はおおむね横ばい

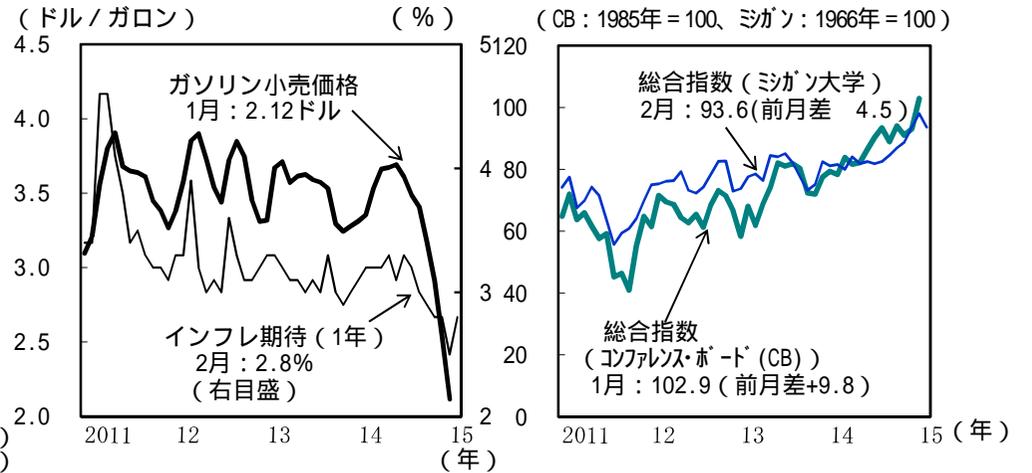


消費は増加



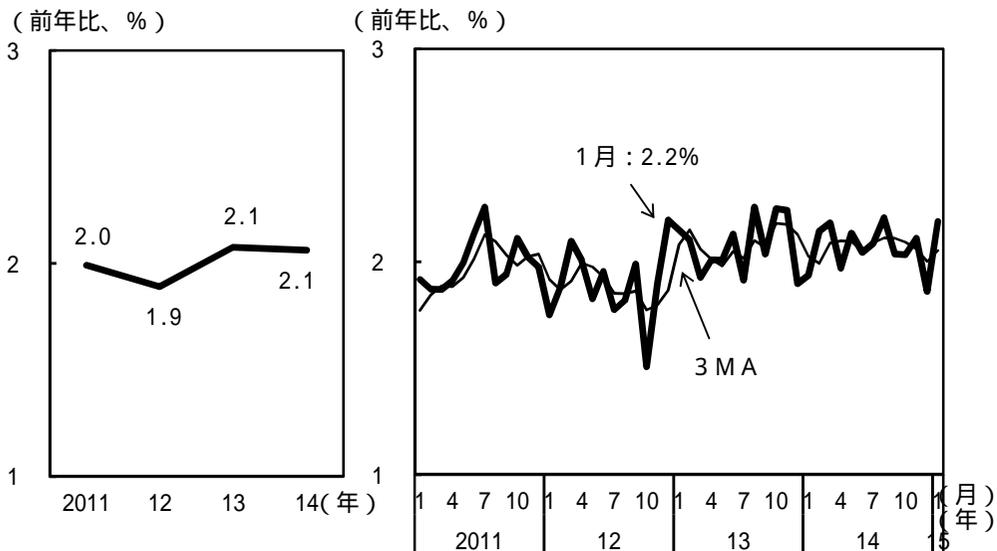
（備考）月次の値は年率換算。

消費者信頼感指数は上昇傾向



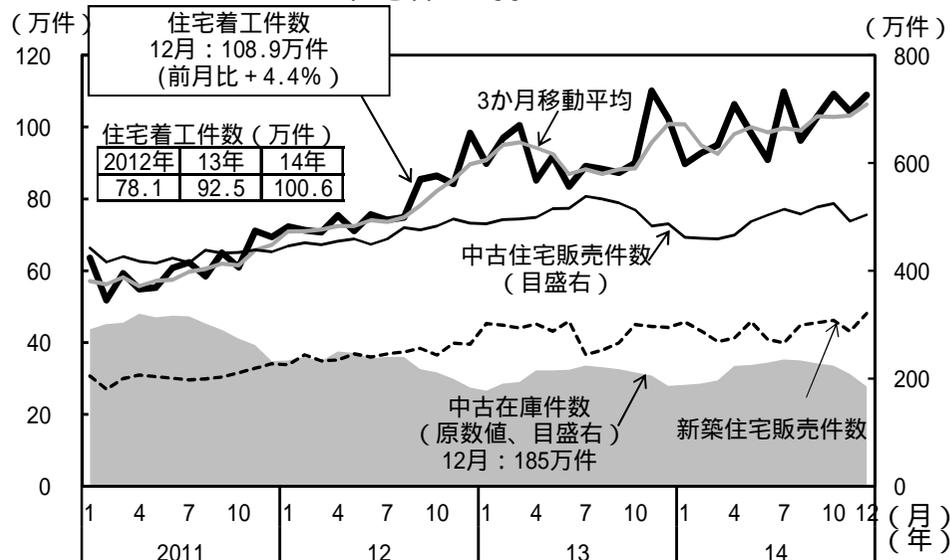
（備考）1.インフレ期待は、今後1年後における物価上昇率予測回答の中央値。
2.ガソリン小売価格は月平均価格。

賃金の伸びはおおむね横ばい



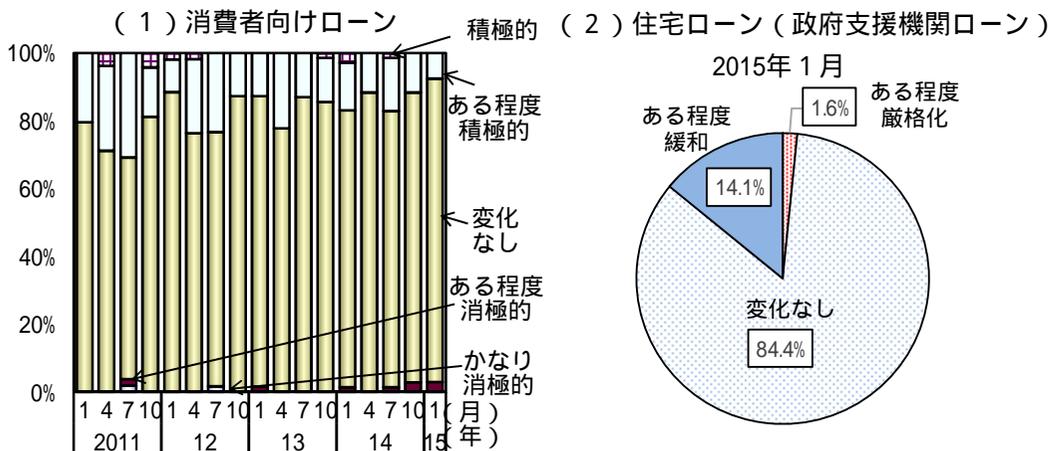
(備考) 賃金の伸びは全雇用者の時間当たり賃金の前年比。

住宅着工は持ち直し



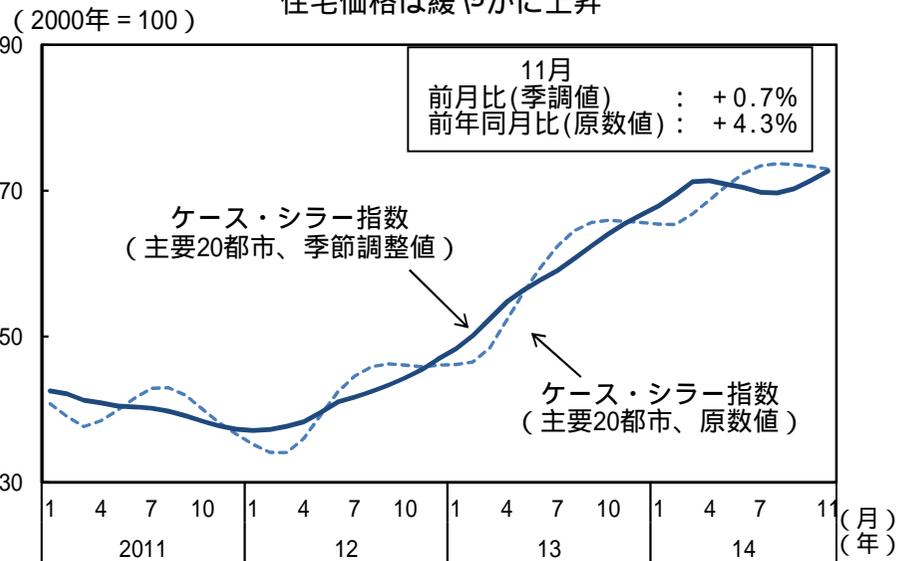
(備考) 1. 住宅着工件数、新築住宅販売件数、中古住宅販売件数は年率換算。
2. 14年12月の販売件数に対する中古在庫の割合は4.4ヵ月分。

金融機関の消費者向けローンに対する貸出態度はわずかに厳格化

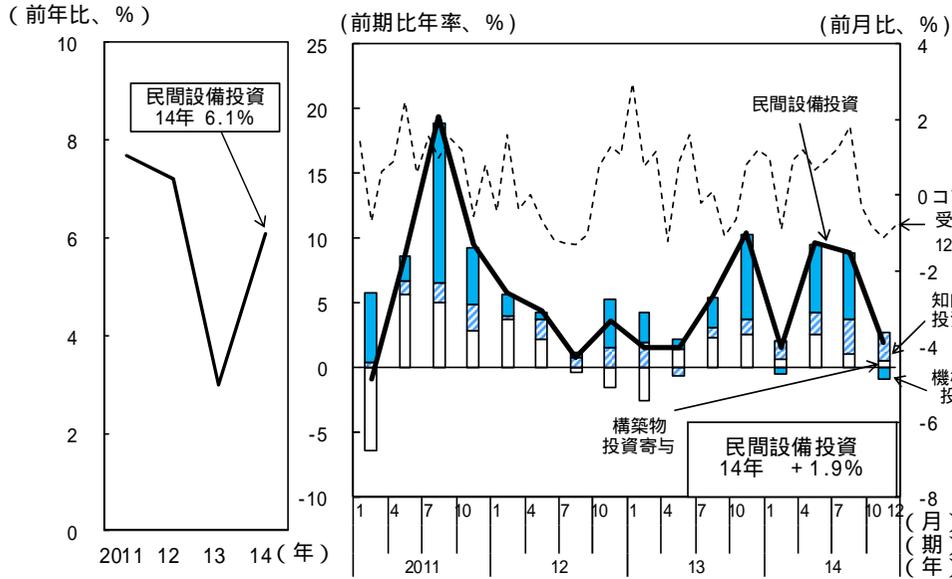


(備考) 1. 金融機関に対し、(1) 過去3か月間で消費者向けローンに対する貸出態度をどのように変化させたか、(2) 住宅ローン(政府支援機関ローン)の申請に対する貸出基準をどのように変化させたか、それぞれアンケート調査を行ったもの。
2. 消費者向けローンは住宅ローンを含まない。
3. 15年1月より調査対象が変更になったため(2)住宅ローンについては時系列データは存在しない。

住宅価格は緩やかに上昇

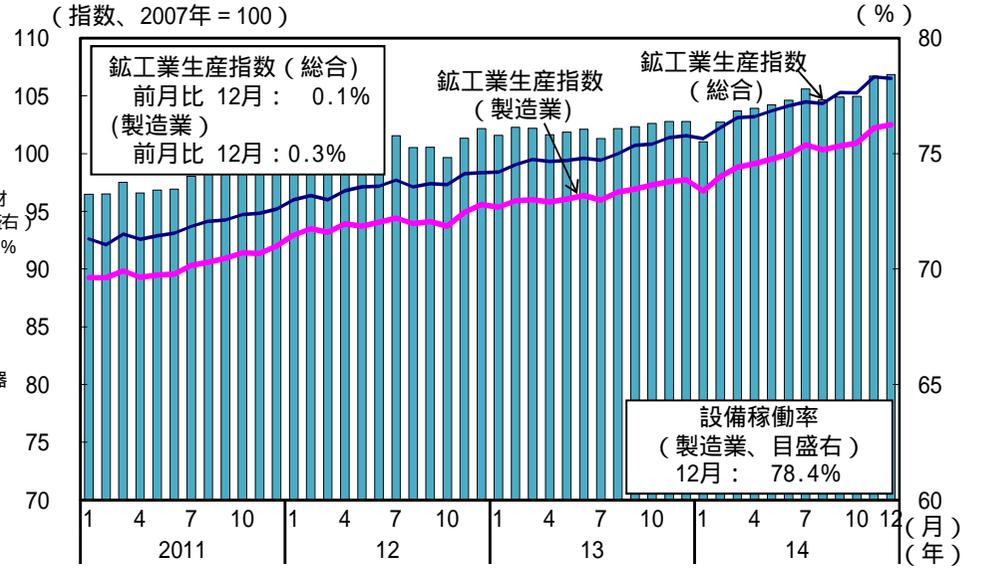


設備投資は緩やかに増加

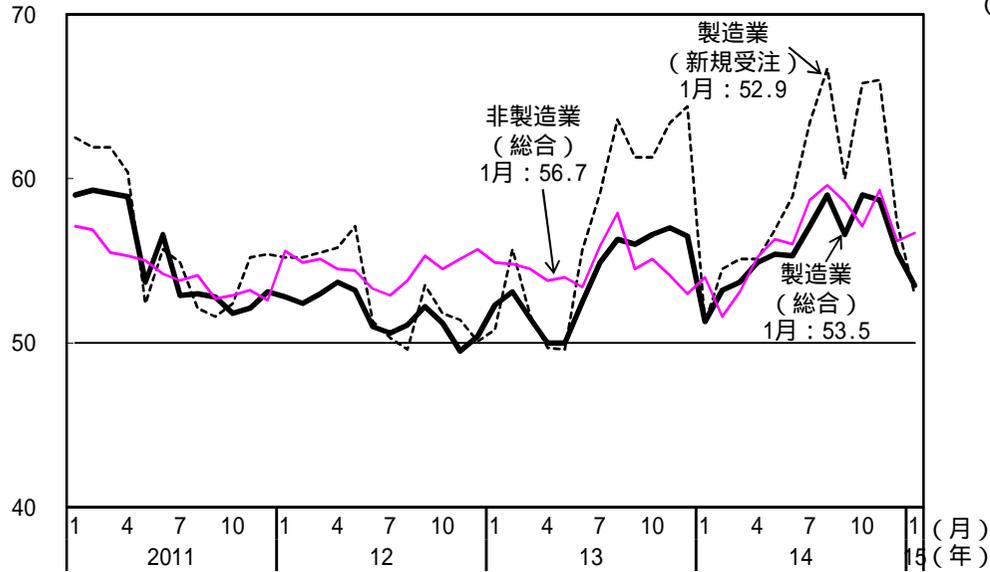


(備考) コア資本財受注は3か月移動平均値。

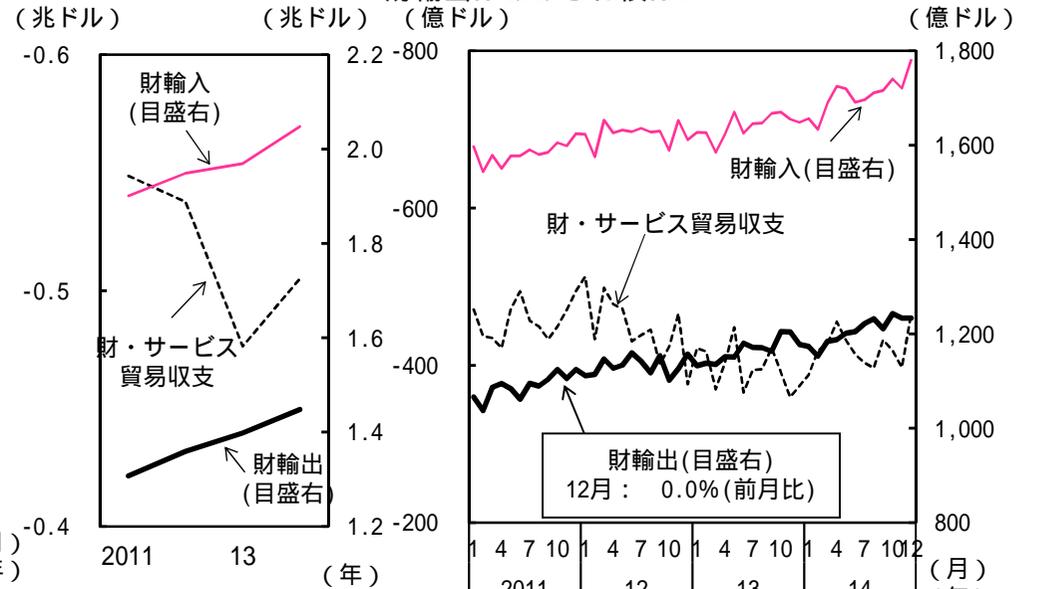
生産は増加



(D.I) 景況指数は原油価格下落の影響もあって低下

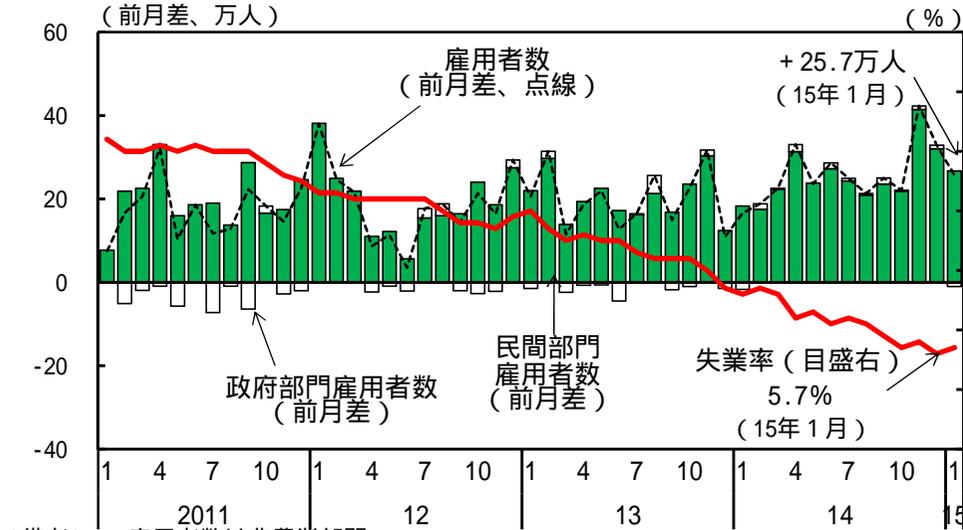


財輸出はおおむね横ばい



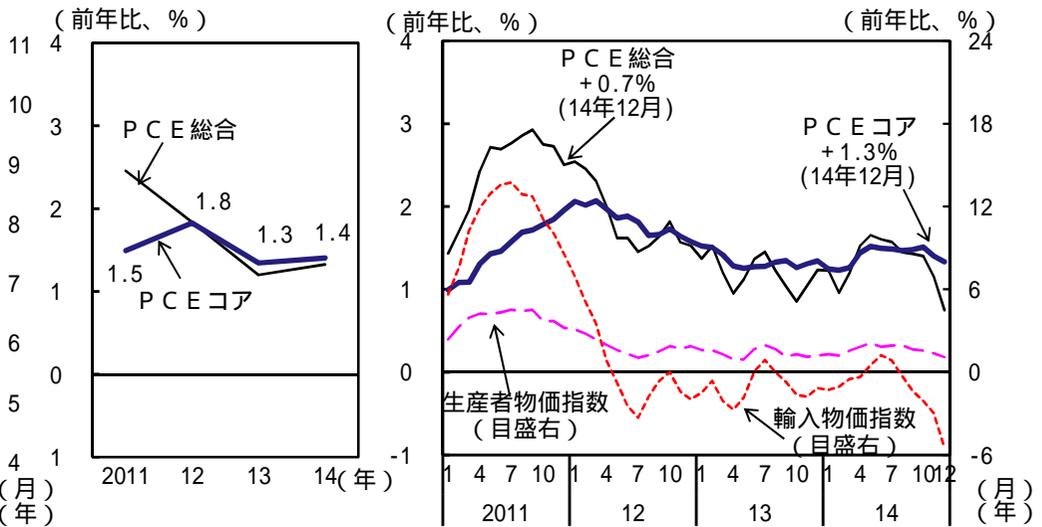
(備考) 財輸出入は通関ベース(実質)、財・サービス貿易収支は国際収支ベース(名目)。

雇用者数は増加しており、失業率は低下



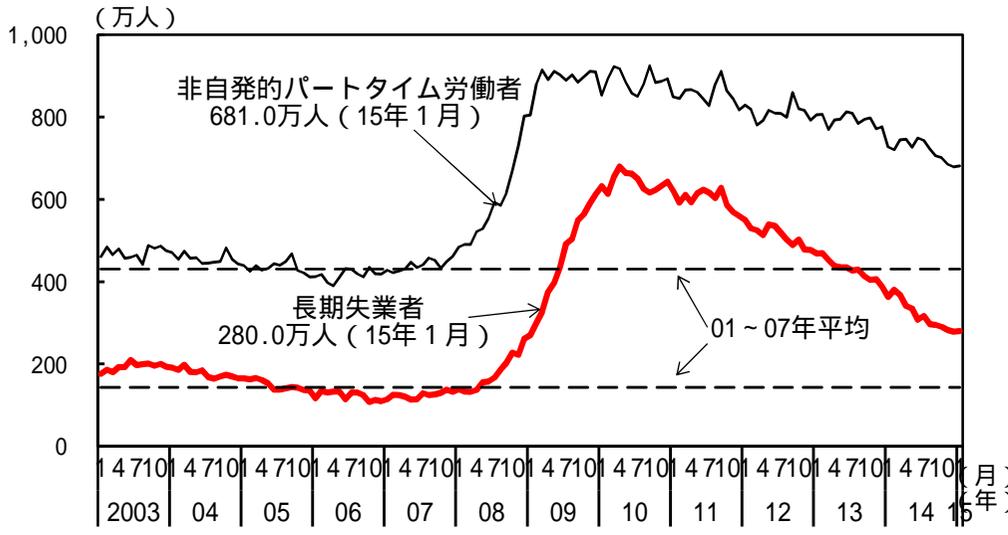
(備考) 1. 雇用者数は非農業部門。
 2. 2008～09年の雇用者数の増減は 866.5万人、10年以降の雇用者数の増減は +1,116.4万人。

コア物価上昇率はこのところやや低下



(備考) コア指数は、総合指数からエネルギーと食品を除いた指数。

長期失業者は緩やかに減少



FEDのバランスシート (資産サイド)

